



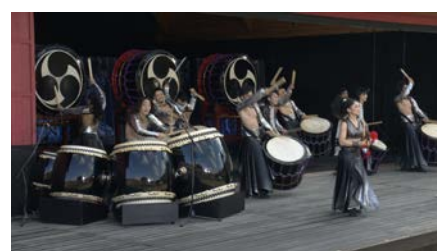
8Kスーパーハイビジョン 試験放送まであと一年！ 最新の8Kコンテンツ、開発機器をNAB2015に出展

4K・8Kに関する国のロードマップに基づき、NHKは来年2016年に8K試験放送を開始し、2018年までの実用放送、東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年の8K本格普及を目指しています。これに向けて、8Kコンテンツ開発・機器開発の両面での取り組みを加速しています。

NHKは世界最大の放送機器展であるNAB2015で、最新の8Kコンテンツと開発機器を出展します。展示ブースでは350インチの8Kシアターを設置し、8Kの持つ超高精細映像と22.2マルチチャンネルの3次元音響で世界の皆さまに究極の映像・音響を体感していただきます。また技術展示では、より実用的になった8K制作機器や最新の8Kディスプレイ、8K放送の新しい多重化方式など、進化する8K機器の数々を展示します。

◎ NABで上映する最新8Kコンテンツ

世界遺産・富士山の美しい映像、和太鼓の迫力ある音響、FIFAワールドカップの興奮と臨場感、8K初のフルCGを駆使した宇宙、きらびやかなファッションショーの模様を、350インチの大スクリーンによる8K超高精細映像と22.2マルチチャンネルの3次元音響で体感いただけます。



◎ 実用的な8K制作機器、最新8Kディスプレイ



8Kカメラ(標準モデル)



8Kカメラ(多目的モデル)



8K録再機



8Kディスプレイ



◆8Kカメラ

放送現場での使いやすさを重視した小型軽量の新型8Kカメラを2種類開発しました。スポーツ中継やスタジオ制作のための標準モデルと、収録ユニットを装着することで撮影・収録が可能な8Kカメラ初の可搬型カムコーダーである多目的モデルを展示します。

◆8K録再機

8K超高精細映像が収録可能な、新型録再機を開発しました。機器サイズが従来よりコンパクトで使いやすくなるなど、進化しています。

◆8Kディスプレイ

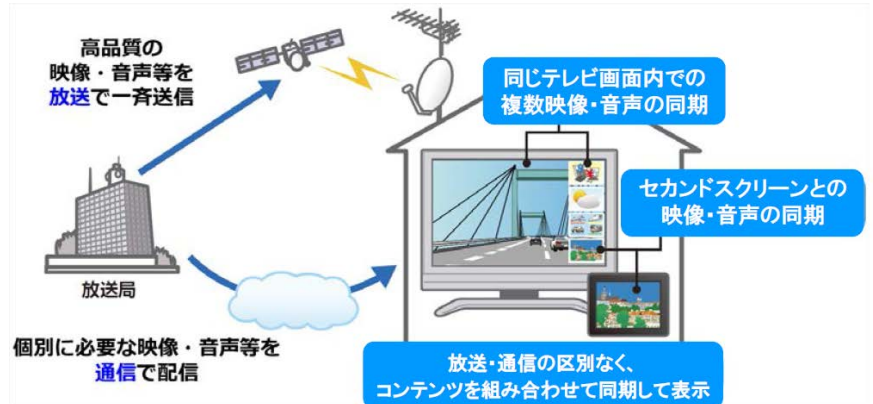
据え置きや壁掛けが可能なリビングルームに自然に溶け込む、スピーカー一体型の8Kディスプレイを展示します。現行のハイビジョンテレビと同様のスタイリッシュな外観で、8Kのフル画質と22.2ch音響を実現しています。また、8Kで世界最小となる13.3インチ有機ELディスプレイも展示します。

◎ 8K放送の新多重化方式: MMT

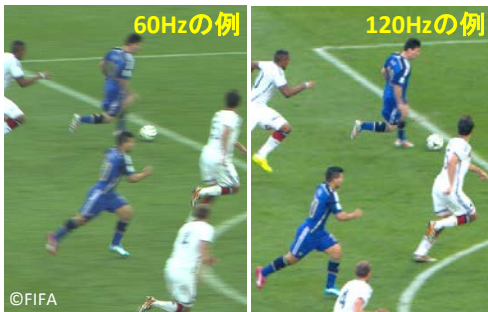
日本における8K放送の多重化方式(放送する際に映像・音声などを伝送・表示するための仕組み)であるMMT*1を用いたサービス例を展示ブースでご覧いただきます。

MMTを用いることで、放送からの情報とインターネット(通信)からの情報を同じテレビ画面内でタイミングを合わせて表示させることができ、マルチビューやモバイル端末との連携など、多彩なサービスが可能になります。

* 1 : MMT(MPEG Media Transport)は日本の8K放送のほか、アメリカの次世代地上放送方式ATSC3.0の要素の一つとしても採用されています。



◎ 8K/120Hz制作システム、22.2chラウドネスメーター



◆8K/120Hz制作システム

1秒間に120コマを撮影し、動きの速いシーンでも高画質で収録が可能な8K/120Hz制作システムです。

◆22.2chラウドネスメーター

異なるチャンネル数のコンテンツ間でも聴覚上の音の大きさを数値化し、均一に保つための22.2ch対応のラウドネスメーターです。

◎ NAB2015 とは

NAB 2015は、全米放送事業者協会によって、毎年4月に米・ラスベガスで行われる世界最大の放送機器展示会です。放送、映画、デジタルメディアに関わる1,700社以上が出展し、世界各国から約10万人の関係者が来場します。

【NHKブース】(展示会開催期間:4月13日~16日の4日間)
ラスベガスコンベンションセンター ノースホール
N8933 "NAB Labs Futures Park" 内



8K スーパーハイビジョン: <http://www.nhk.or.jp/8k/>